

# みんなの環境

第 40 号 2016 年 9 月 1 日

編集/発行 あつぎ環境市民の会  
[http://www.geocities.jp/atsugi\\_kankyo/](http://www.geocities.jp/atsugi_kankyo/)

## ごみ処理のこれから ～焼却灰の全量資源化を目指す方針へ

鷺谷雅敏\*

厚木市内では、ごみ中間処理施設（ごみ焼却と粗大ごみ処理施設）の設置に取り組んでいます。市内の施設といっても、実施主体は厚木市ではなく、一部事務組合と呼ばれる厚木愛甲環境施設組合（管理者：小林常良厚木市長）。地方自治法に定められている広域連携の一つで、ごみの一般廃棄物処理施設設置に向けて厚木市・愛川町・清川村において平成 16 年 4 月に発足しました。

これまでに、ごみ焼却場からの焼却残渣を処理（埋める）する最終処分場を清川村に取り決めて焼却灰を熔融処理した熔融スラグを埋める処分場として計画してきました。この間、中間処理施設（ごみ焼却場、粗大ごみ破碎施設）については、厚木市内にと約束したものの建設候補地の決定過程で混乱し、時間を費やしていましたが、新たな建設場所の決定とともに、平成 28 年 3 月に発表された「ごみ中間処理施設整備基本計画」では、大きな方向転換が図られました。

### ○最終処分場の設置は中止

それによると従来予定した焼却灰の熔融処理は行わないこととし、排出する灰は民間業者に全量を資源化の委託処理をする方向に変更となりました。

ここで出される焼却灰ですが、近年はセメント原料への転用（製品名：エコセメント）や外部での熔融スラグ化を通した路盤材への利用など、委託費用の増大や資源化における新たな問題点（コンクリート長期強度の低下や熔融スラグ製品の活用法などの課題）の指摘・課題があるにせよ近年は最終処分場確保に対応する現実的な方策として広まっていく動きがあるとして、厚木愛甲環境施設組合では平成 28 年 1 月発表の厚木愛甲ごみ処理広域化実施計画案で焼却灰の全量資源化を目指す方針とし、これまでの清川村で進めていた最終処分場は中止としました。

新たな中間処理施設の稼働目標は平成 37 年度とかなり先のことですが、超高齢社会（高齢化率 21%以上）への対応や、ごみ処理経費の高止まり（H26 年度 1 人当たり 13,898 円）などの課題があります。突き詰めては社会的弱者問題や税金の使い道から見た公平性とは何かといった問題に至る多くの課題にあふれたごみ問題ですが、健全な社会を維持していくための必須のインフラでもあります。ごみ埋め立ての最終処分場を整備中止としたことは、かなり思い切った決断ではありますが、おそらく多くの方は「どうして最終処分場はいらないの？」といった疑問を抱くことでしょう。これは関係市町村と環境施設組合とで役割分断した結果、十分な説明が尽くされていないためとも言えそうです。

今年度は「ごみの収集方法等に関するワークショップ」も始まり、市民を巻き込んだ多方面の検討が期待されます。廃棄物処理が社会の静脈産業といわれますが、すべての人に係る問題であり、それぞれが自分のこととして注意を払っていきましょう。

\*（さぎたに まさとし あつぎ環境市民の会）

# 太陽自動追尾型に関心集まる

## 第2回 ソーラークッカー全国大会へ出展

不破穰一\*

昨秋、11月2、3日に足利市において第1回の表記大会が開かれ、広い会場に多くの出展者と



見物者が集まり、大手放送局のカメラも入り随分と賑わったと聞いていた。これに引き続いて今年は甲府市で、市と当該地の環境ポランティア他の協力で第2回が開催されることになり、出展案内に応じて我々「あつぎ環境市民の会／ひまわりソーラークッカー研究会」はこれに出展することとした。

会場は JR 甲府駅から遠からぬ位置にある環境センターの隣接地であった。

我々は当日午前6時前に厚木と稲城から、中型乗用車2台と小型トラック1台に、出展機材、実演道具、パネルその他を満載して出発、午前10時前の開会式までに出展準備を整えた。当日は会の開始時刻前から終了まで、ほとんど太陽の见えない位のうす曇りの天候で、暑さはしのげたもののソーラークッカーの実演が出来る状態では無かった。それほど広いとは言えない屋内・外展示会場には、26団体がそれぞれ自慢の太陽熱利用機器（殆んどソーラークッカーで、一部が温水器）が展示され、出展者スタッフが説明に汗をかいていた。天候の状態で殆んどソーラークッカーが実演できず、一般来場者（約230人）の方もいささか拍子抜けの体であった。



我々、あつぎ環境市民の会／ひまわりソーラークッカー研究会の出展ブースには、大型パラボラタイプ1台、中型の真空二重ガラス管タイプ2種2台、教育用簡易パラボラ型1台を展示した。このうち前3台は太陽自動追尾式であり、パラボラタイプは経緯度式天文データ利用太陽自動追尾型であり、4.80型の真空二重管タイプでは同上方式であるが今回の出展品は経度追尾のみであった。さらに10縦型タイプのは、管の構造上赤道儀式（一軸式）の追尾が可能でありこの方式の簡易な構造が作りこまれていた。出品三機種が太陽自動追尾であったのは我々のブースへの来場者を驚かせたように思われた。

ソーラークッカーについては徐々にではあるが知られてきつつあるようにも思えるが、実用性の点からは太陽自動追尾がやはり望ましく思われ、これの廉価なものの実用化が待たれるという状況ではないだろうか。今回は一部の出展者は屋内展示で出されており、さらに屋内会場では簡易ソーラークッカー2種と温水器1種の組立教室が開かれた。あつぎ環境市民の会・狩野光子氏による簡易ソーラークッカー「ひまわり」の組立指導と、ソーラークッカーについての説明は約40人が参加した。

今回の会は、何でもありの環境展とはやや趣を異にし、太陽熱利用機器の展示等に的が絞られていたため、やや専門的ではあったが我々としては有用な出展であったと感じている。

\*（ふわ じょういち ひまわりソーラークッカー研究会）

## 市域西部は濃度が低い

### 二酸化窒素測定 ～11年間のまとめ～

松下泰行\* 遠藤睦子\*

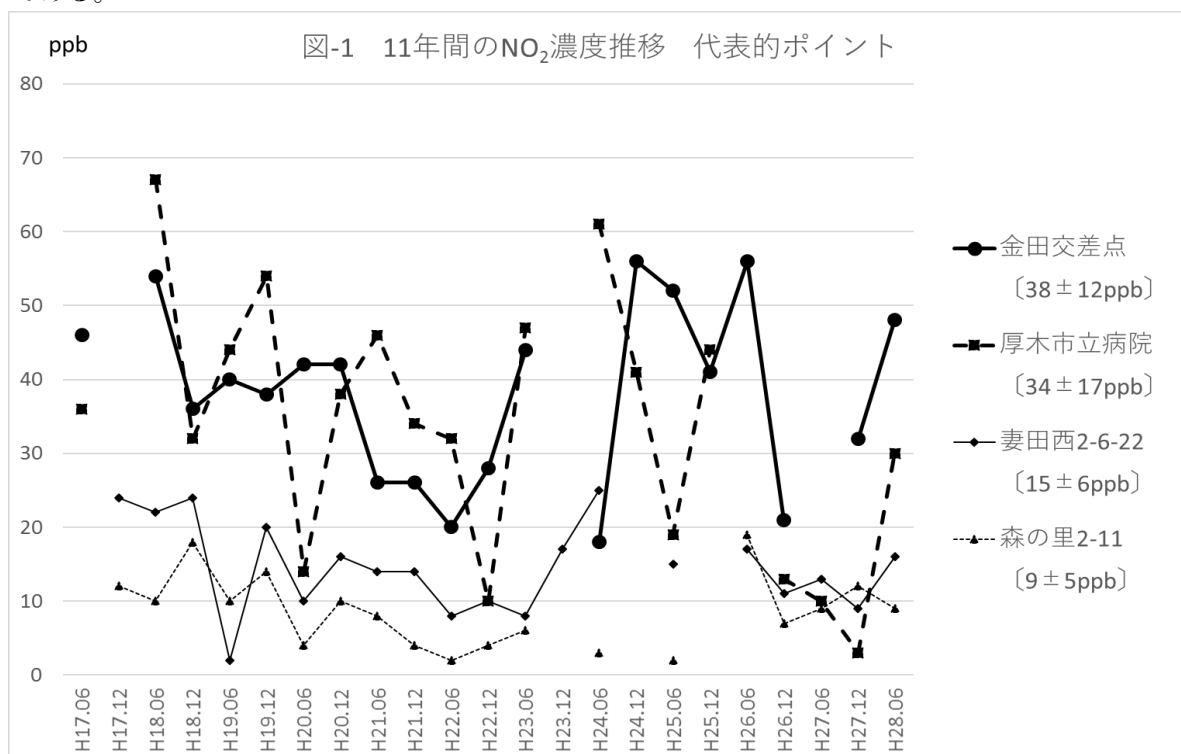
2016年6月上旬に厚木市内42地点で、二酸化窒素（以下、NO<sub>2</sub>）測定のため捕集管を設置・回収を行い、結果は最小が8ppb、最大は57ppbとなった。

この活動は会発足時から行い続け、途中から神奈川工科大学と連携している。日時の変更、試料紛失などの様々な問題があるが、今年11年目になる。そこで、今までの結果をまとめて考察した。

初めに11年間の濃度変動は増加・減少などの傾向は認められず、稀に環境基準の60ppbを超えるポイントがあるが、常に超えることはない。

次にNO<sub>2</sub>濃度平均値が20ppbを超える比較的高いポイントと、それ未満の低いポイントに区分すると、以下のことが分かった。

平均値が20ppbを超えるポイントは、交通量が多く、渋滞しやすい場所であると推測され、雨や風などの気候要因、交通量の要因の影響を受けやすい可能性があり測定日ごとの変動が大きい。その場所は、国道129・246沿い(23～38ppb)、相模大橋際(31ppb)、バスセンター(27ppb)、荻野新宿交差点付近(27ppb)である。一方、平均値が20ppb未満のポイントは、測定日ごとの変動が比較的小さく、幹線道路から少し離れただけでも濃度低下がみられる(15～19ppb)。さらに市役所から西方向に設定したポイントでは西に行くほど減少している(17ppbから9ppb)。ちなみに最も低い測定ポイントは、森の里で9ppbである。なお、以下の図は選択した4地点のグラフである。



今までのNO<sub>2</sub>測定結果があるので、今後は測定場所変更・追加の検討や、まとめ・考察の実施予定である。また、今後も6月と12月の年二回の実施を継続したい。

\* (まつした やすゆき あつぎ環境市民の会) \* (えんどう むつこ あつぎ環境市民の会)

---

## 戸惑いながらの楽しい3時間

出前発電所を作ろう！ あつぎ Vol.1 を開催。

井上 允\*

8月21日、初めての試みとして、どこにでも移動できる独立型太陽光発電(PV)システムの組み立て講習会を開催しました。

講師はNPO法人PV-Net 神奈川地域交流会の古峰聖治氏。会場の厚木市文化会館集会室には、市内のほか県内外から6組の参加者に加え多くの見学者もありました。



始めに講師から太陽光発電の原理や電気の基礎のレクチャーがあり、組み立て実技講習では、鉛バッテリー、充電コントローラ、インバータなどを収納ケースに収めながら結線し、最後に太陽電池モジュールを接続して動作確認をしました。電気用工具を使った作業や配線に戸惑いながらも楽しい3時間になりました。

出来上がった発電システムでは1回の充電で50Wの扇風機を3~4時間動かすことができそうです。参加者にはこれからアウトドアや家庭内での様々な利用を試みていただき、仕組みの理解をさらに深め、PVの普及につなげていただければ幸いです。

\* (いのうえ まこと あつぎ環境市民の会代表)

---

## 「日本と原発4年後」 上映会と監督トーク

全国の原発差し止め訴訟の先頭に立つ弁護士河合弘之氏の監督作品第2弾の上映会を開催します。この作品は日本の原子力発電の問題点を様々な角度から、識者のインタビューも交えながら、わかりやすいタッチで描いています。上映会に続く河合監督自身による原発トークにもご期待ください。

もし、私たちのまちが強い放射線で汚染されたなら、あなたはどうか行動しますか？ 福島のことを他人事と思わず、原発のことを今一度考え直してみませんか。

日時： 2016年10月15日(土) 上映 18:00~ 監督・河合弘之氏のトーク 20:20~

会場： 厚木市文化会館小ホール (厚木市恩名 1-9-20)

入場券：(全自由席) 前売り：1,000円、当日 1,200円

前売所： 厚木市文化会館 046-224-9999、有隣堂厚木店 046-223-4111

入場券はFAXやメールでも受け付けます。入場券送付先を明記してお申し込みください。

(受付順に入場券と振込用紙をお送りしますので、到着後代金をお振込みください)

主催： あつぎ環境市民の会

お問合せ・申し込み：(電話・FAX) 046-241-7976 (井上) (メール) [pxa05613@nifty.com](mailto:pxa05613@nifty.com)

### みんなの環境 第40号 2016年9月1日発行

編集・発行 あつぎ環境市民の会 代表 井上允 / 制作 長岡恂

e-mail: [mkt.inoue117@gmail.com](mailto:mkt.inoue117@gmail.com)

事務局 〒243-0122 厚木市森の里 3-4-3 鷺谷雅敏方

e-mail: [pxa05613@nifty.com](mailto:pxa05613@nifty.com)

郵便振替口座 00200-7-132779 (年会費 1000円)

(C)あつぎ環境市民の会 2016